

指定管理者上半期モニタリング評価表(令和6年度)

施設名:和光市民文化センター

指定管理者名:公益財団法人 和光市文化振興公社

1 設置目的・使命の達成状況(文化事業に対する取組)

項 目		令和6年度 上半期(自己評価)	モニタリング評価		
		成果の説明	配点	自己評価	評点
1	市民の自主的で創造的な文化活動の場や機会の提供	市民団体の文化活動である、ベビーカーコンサート、合唱及びオーケストラ、舞踊等の7団体が公演を開催。市民の文化活動の場や機会の提供した。	4	4	4
2	市民や地域の文化団体や企業との連携及び支援	跡見学園女子大学から8月にインターンシップ学生1名を5日間の予定で受け入れた。(うち1日は台風のため中止した) 和光おもてなし隊と連携し、和光市民文化センターサンアゼリア前のプランターを植替えた。これにより来場者への一時の癒しを届けることができた。	4	3	3
3	地域文化資源の保存・継承・発信	第20回目となった「清水かつら記念 日本歌曲歌唱コンクール」を実施して、和光市ゆかりの童謡詩人 清水かつらの顕彰し、和光市から全国へ向けて発信した。なお、オーディエンス賞を設け、来場者が投票することで、会場一体となったコンクールとなった。	4	4	4
4	市民ニーズに応じた国内外の優れた舞台芸術などの鑑賞事業の充実	島津亜矢、近藤真彦、ザ・クロマニヨンズ、八神純子、GRe4N BOYZ、田原俊彦、小椋佳などのコンサートやオペラ、吹奏楽(東部方面音楽隊)を開催して鑑賞事業を充実させた。(全て敬称略)	4	4	3.67
5	幅広い世代、様々な市民を対象としたプログラムの実施	市教育委員会及び各学校と連携し、市内小学校及び大和中支援学級への音楽アウトリーチ事業「おんがくのたね♪」を実施中である。上半期では全10校中8校の実施が完了している。	4	4	4
6	文化の発信基地として文化に関する多様な情報の収集や発信	和光市民文化センターサンアゼリアのホームページを、利用者の見やすさと、管理する側の更新しやすさの両面から見直して、全面的にリニューアルした。	4	4	3.33
7	世代間・地域間・団体間交流事業など、様々な市民ニーズに対応して、地域アイデンティティの形成を支援	市民団体等の活動である「和のコンサート」や「和光太鼓周年事業」を支援し、地域間・世代間の交流を図った。	4	3	3
8	地域の文化人材の育成、起用、協働に向けた「人づくり」のための事業展開	市内7小学校、1中学校支援学級で「おんがくのたね♪」を実施した。 市内児童合唱団の活動を施設面及び予算面からサポートし、地域アイデンティティの形成を支援した。	4	3	3
9	和光市が実施する各種文化行事等の受託及び協力	7月に展示棟で実施された、「パリオリンピック2024出場選手壮行会」をはじめ、市各課の施設利用について、適宜協力、対応した。	4	3	3

10	独自性・独創性を備えた新たな事業の実施	東京音楽大学アクトプロジェクトとの協働事業を当社の若手アーティスト支援プログラムとして実施中であり、下半期の公演実施に向けて準備を進めている。また、十文字学園女子大学との協働事業の準備を進めている。	4	3	3
11	第5期指定管理期間のコンセプトに基づいた年間事業計画の作成・実施	「誰でもコンサート」、「和のコンサート」を実施した。地元出身のオリンピック選手の壮行会を市及び企業とコラボして実施した。	4	4	3.33
12	指定期間における中長期的な計画的な事業計画・段階的な事業展開・事業の成熟化	自主事業でアンケート調査を実施した。市民まつり等によるアンケート調査を実施する準備を進めている。	4	3	3
13	前年度事業評価委員会での助言等に対する取組	対応可能なものから順次取り組む準備をしている。	4	3	3

2 施設の運営に関する項目

項 目		令和6年度 上半期	モニタリング評価		
		成果の説明 ※必須	配点	自己評価	評点
14	総入場者数の確保に対する取組	令和6年度上半期の施設利用者数は、68,490人であり、前年度同時期比10.2%増となっている。	4	4	4
15	稼働率増加に対する取組	令和6年度上半期の核施設稼働率は、大ホール82.9%、小ホール70.8%、会議室49.7%、展示棟45.8%である。ホール稼働率においては前年度同時期比で、大ホールで4.5%増、小ホールで5.4%増となっている。	4	4	4
16	利用者の平等な利用の促進	施設利用予約日初日には抽選会を実施している。利用希望日が重なっている場合は、1団体1名まで抽選に参加できる仕組みで、利用者を決定している。すべての団体が予約日に予約を取れている。	4	3	3
17	分かりやすい利用案内・事業案内及び周知活動(広報活動を含む)	和光市民文化センターサンアゼリアホームページを、閲覧者の様々な機器で見やすいように、全面的にリニューアルした。	4	4	3
18	施設利用者及び来場者の満足度とそれに対する取組(アンケートの分析・苦情トラブルへの対応を含む)	事業の来場者及び貸館利用者へアンケートを実施した。今後活用を図るため、現在内容を分析中である。	4	3	3

3 施設の管理に関する項目

項 目		令和6年度 上半期	モニタリング評価		
		成果の説明 ※必須	配点	自己評価	評点
19	施設の安全管理の実施・危機管理体制の確立	7月に今年度1回目の消防訓練を消防署員立ち合いで実施した。職員、スタッフ計30名が参加。危機意識を共有して訓練を行った。また、今回は通常の訓練に加えて、AED使用訓練も実施した。	4	3	3
20	施設及び備品の適切な維持管・点検・整備	施設の設備・機器の点検を計画通りに実施した。	4	3	3
21	中長期的な修繕計画の作成及び実施	施設の主館空調機器2台中1台が故障中であり、夏期の酷暑に対処するため、通常以上に細やかな機器操作及び調整を行い適宜対応した。 直流安定化電源仮設(停電時の代替電源かつ復電時の操作電源) 企画展示室照明修繕、防火戸調整(大ホール)、非常用照明修繕、トイレ洗面台排水管路修理解消	4	3	3

4 組織運営に関する項目

項 目		令和6年度 上半期	モニタリング評価		
		成果の説明 ※必須	配点	自己評価	評点
22	関連法令の遵守	定例会議及びスタッフ会議を毎月実施している。 5月にカスタマーハラスメントに対する対応マニュアルを作成して、職場内で共有することで組織的な対応を図った。	4	4	3.67
23	必要人材の確保・配置及び職員の能力開発、ボランティアスタッフ等人的資源の育成・活用	次の各研修等に参加し、職員の知識及びスキルアップを図った。 4月: 埼玉県公立文化施設協議会研修会(さいたま芸術劇場) 7月: 埼玉県社会保険協会セミナー(ウエスタ川越) 7月: 地域創造フェスティバル2024(東京芸術劇場) ほか	4	3	3

5 経営に関する項目

項 目		令和6年度 上半期	モニタリング評価		
		成果の説明 ※必須	配点	自己評価	評点
24	自主文化事業に対する収支比率とそれに対する取組	子どもゆめ基金からの助成金218,000円を受領した。下半期に助成金収入予定がある。 日本歌曲歌唱コンクールを実施した。	4	3	3
25	収入の確保の工夫及び施設の運営経費削減・効率的な運営に向けた工夫	指定管理料を提案額どおりに受領することができた。また、和光市のESCO事業中止により、施設予約を開放し、利用可能日を増やした。市の修繕実施までの期間に、仮設電源設置等の施設整備を行った。 鑑賞事業のポピュラー公演を共催事業とすることにより経費削減ができた。新たにバックステージツアー(探検、体験)を行った。	4	3	3

評価コメント

・鑑賞する機会の提供や貸し館事業にとどまらない幅広い文化事業を工夫している。
・全体的な水準は満たしているが、来場者以外のニーズ把握や、その結果に基づいた事業展開など、サイレントマジョリティの掘り起こしにも力を入れてほしい。
・HPは、タッチパネルと違ってマウスポインタだと操作しづらい部分(例:PCで画面上の「観たい」～「アクセス」の4つのアイコンから下層のページを選択するとき)があると思うので、リニューアル後も使用しながらブラッシュアップを続けてほしい。

自己評価点	合計	85	点
評価点	合計	82	点